美容院の憂鬱

Qchadell

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
美容院の憂鬱

【Ｎコード】
Ｎ１７４２Ｐ

【作者名】
Ｑｃｈａｄｅｌｌ

【あらすじ】
タイトルどおりですね。ほんとは２００字の予定だったんですが４００字ぐらいになってちょっと中途半端。

（前書き）

ほぼ実話。

タイトルで察してもらいたいが、ここは美容院だ。
「じゃあ先シャンプー入りま～す」
「は、はい」
俺は洗面台みたいな所に頭を突っ込んだ。
美容師の手がシャンプーを泡立たせる。
「痒いところないですか～」
「え～っと、つむじの後ろらへんですかねえ」
美容師の手がそこに移動する。
「ん～違うなあ、えっと前かなあ、違うなあ左……あ、大丈夫です」

そこで俺はとんでもない過ちに気付いた。
痒い所は首だ。
何ということだ。
痒い所と言われて、首と答えるのは有りなのだろうか。
どうすればいいんだろうか。
「はい、顔すすいでくださ～い」

そんなことを考えてるうちにもうシャンプーは終わってしまったらしい。
何となく虚しさを感じながら俺は首を掻こうとした。がまたそこで気付いた。
突然首を掻いたら失礼なのではないだろうか。
大丈夫とか言ってたのになんだよこいつ……っと思われないだろうか。
そう思われるに違わない。
俺はそれから約2分間痒みを我慢しなければならなかった。
もう二度と行かない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1742p/

美容院の憂鬱

2010年12月13日18時31分発行